

The  
Kyushu  
University  
MuseumNo.22  
News

九州大学総合研究博物館ニュース

## 歴史的備品再生プロジェクトの進展

博物館と農学部で別々に行われてきた大学内に残されている木質什器の収集保存が、昨年から『九州大学歴史的備品再生プロジェクト』となり、全学的な広がりを見せている。家具などの什器をそのまま収集保存することを目指す博物館と修復によって利用しながら保存することを目指す農学部の考えが見事に合体した結果である。

総合研究博物館第7代館長 吉田 茂二郎



「大学」「醫院」のロゴマークが入ったうつわ

I

福岡ミュージアムウィーク2014参加企画特別展示

## 「うつわと九大」

開催期間：2014年5月16日(金)～6月30日(月) 場所：箱崎キャンパス旧工学部本館3階常設展示室

担当：舟橋 京子 開示研究系・助教

学内に廃棄された器から近代史を解き明かした研究成果展示「うつわと九大」展を開催しました。この展示は福岡市内の博物館・美術館が連携して、「国際博物館の日」(5月18日)を記念して毎年開催されているミュージアムウィーク参加企画の

1つとして行いました。会期中に179名の方にご来場いただきました。

展示は、学内のアジア埋蔵文化財研究センターの田尻義了准教授の研究成果(田尻 義了,九州大学出土の硬質陶器について,平成25年度九州史学会考古学

部会,2013.12.08)をもとに田尻准教授の監修により展示が行われました。展示内容は、大学構内の発掘調査により出土した陶器・ガラス瓶などの近代遺物から九州大学の設立経緯や、近代の陶磁器の流通、戦時中の統制経済をあきらかにした

〈p.2へ続く〉



## 催事・展示クローズアップ

《p.1から続く》



出土品の展示とパネル解説

ものです。展示された出土品は、馬出キャンパスから出土した大学病院で使用されていた病院食器や薬瓶・飲料瓶、箱崎キャンパスから出土したお湯のみなど、当時の大学内で日常的に使用されていた「うつわ」です。展示の最後には現代の本学において廃棄を免れた農学部・旧印刷所内収集食器も紹介しました。

会場では、出土品とともに出土品から明らかになった内容を解説したパネルを

展示しました。通常文章・写真を通じて知ることが多い近代の歴史を、出土品から明らかにするという研究成果展示は見る方々にも新鮮に映ったようです。ミュージアムウィーク期間中以外は平日のみの開館にもかかわらず、多くの方にご来場頂きました。

これからも展示を通じて学内で日々生み出される新しい研究成果を皆様にご紹介したいと考えております。ご期待下さい！

## II 夏の昆虫教室

### 1. 「カイコの糸取り教室」

期間：2014年7月26日(土)

講師：福原 美恵子<sup>1</sup>・伴野 豊<sup>2</sup>

共催：総合研究博物館<sup>1</sup>・

農学研究院附属遺伝子資源開発研究センター<sup>2</sup>

### 2. 「セミの標本教室」

期間：2014年7月27日(日)

講師：紙谷 聡志<sup>3</sup>・丸山 宗利<sup>1</sup>

共催：総合研究博物館<sup>1</sup>・農学研究院昆虫学分野<sup>3</sup>

### 3. 「セミのぬげがら樹脂封入教室」

期間：2014年8月6日(水)

講師：福原 美恵子<sup>1</sup>・紙谷 聡志<sup>3</sup>・丸山 宗利<sup>1</sup>

主催：総合研究博物館<sup>1</sup>

場所：箱崎キャンパス21世紀交流プラザ I

担当：丸山 宗利 開示研究系・助教

福原 美恵子 研究支援推進員

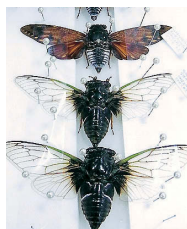
繭・成虫を観察し、カイコの生態や、人との関わり、カイコの系統を保存する意義(本誌 P7の記事参照)を教わりました。その後、一人一人が繭



「より糸」を作りました

から実際に糸を取り、腕飾りや葉などの素材として使える「より糸」をつくりました。

「セミの標本教室」では、地域によって身近なセミが異なることなどを教わった後、外に出てセミを採集し、標本作製の意義、針を刺す位置、翅の広げ方、脚の整



セミの標本

え方、ラベルの書き方などを学びながら、標本庫に納めることも可能な「きちんとした昆虫標本」に仕上げました。

「セミのぬげがら樹脂封入教室」でも自分で採集したセミのぬげがらを、透明なエポキシ樹脂の中に埋め込みました。

セミ、ツノゼミ、標本の講義も受け、昆虫に関する質問にもたくさん答えてもらえました。



セミのぬげがら樹脂封入標本

「夏の昆虫教室」は昨年より企画・準備を進めてきました。昆虫をより身近に感じ、子供たちの成長の過程で昆虫に対する興味を新たにすることを意図して、日常使



網の使い方も習ったよ

う品物や長期間保存できる標本作製することにしました。また、昆虫が必要以上に嫌われ、採集が

残酷ととらえられる風潮もある中で、保護者にも子供たちと体験を共有していただくことで、先入観なく対象をみることの大切さを感じていただけたらとも思いました。

以上の意図を十分に反映しきれなかった面もありますが、今回の経験を生かし、より魅力的な教室を今後も開きたいと思っています。

夏休みの思い出とともに子供たちに昆虫学への興味の種を蒔くことができたと「夏の昆虫教室」を開きました。

「カイコの糸取り教室」では、参加者は、カイコの卵・幼虫・



伴野先生による実演



展翅は慎重に

# Close-up Event & Exhibition

## III

### 博学連携： 小学校巡回展示第二弾 「先史時代の品々」

期間：2014年6月10日(火)～7月18日(金)

担当：三島 美佐子・岩永 省三

昨年1月に始まったモデルプロジェクト・小学校巡回展示。今年も福岡市立香椎東小学校さんのご協力を得て、第一弾から改良し、実施しています。今年



小学校図書室前の展示

は「理科」の枠をこえて幅広く、展示場所も、理科室前から、すぐ調べ物ができる図書室前へ変更。そして、昨年度の公開展示で制作しておいた、標本箱をとりかえるだけで手軽に展示替えできる軽量の展示台を使用しています。

この新たなしつらえで挑んだ、第二弾のテーマは、「先史時代の品々」。5月は6年生が縄文・弥生の学習を終える時期、歴史好きの生徒から「本物の鏡を見てみたい」との声があるということで、このテーマが選ばれました。考古学が専門の岩永教授が6年生の社会科教科書を参考にしながら選んだ資料は、リクエストにあった中国の銅鏡、そして子ども達の今の生活に身近なものという視点で、縄文土器、石斧と紡錘車、勾玉と管玉、復元弥生土器(いずれも当館所蔵)。



子ども達は、「わあ、すごい!」「本物やん!」と目を輝かせていたそうです。

岩永先生によるイラストで、使い方もわかるようにしました。

## IV

### 「国際博物館の日2014」記念特別企画第一弾 「標本 de 表現」

期間：2014年5月17日(土)

場所：箱崎キャンパス博物館第一分館・地蔵の杜

担当：三島 美佐子 開示研究系・准教授

5月18日は、ICOM(国際博物館会議)が定める「国際博物館の日」で、毎年テーマが定められています。2014年の世界共通テーマは“Museum collections make connections”(博物館のコレク



地蔵の杜のさわやかな緑と光をあびて、共同制作前の体ほぐし。

ションが、つながりをつくる)。これにあわせて、当館のコレクションと閲覧者の皆さんとの新しいつながりを産み出すワークショップを実施しました。標本を見て感じたり思ったりしたことを、体を使って表現してみるという一風変わったプログラム。講師は、福岡で活動するダンサーの宮原一枝さんと柴原あゆみさん。統合新領域学府の学生さんがファシリテーターをつとめるいくつかのチームに

分かれ、まず第一分館の収蔵展示をじっくりと見て回り、チーム内で共有したのち、作品を共同制作して発表。短い検討時間にも関わらず、どのチームも素敵な作品に仕上がっていました。「これまでこんなにしっかり標本を見た事なかった!」という声も聞かれ、標本観察や学習のあり方について新たな発見のある機会にもなりました。

## V

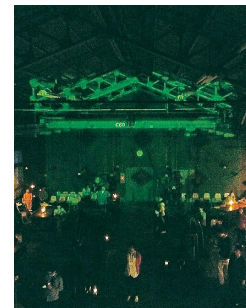
### 「国際博物館の日2014」記念特別企画第二弾 「夜会」

期間：2014年5月18日(日)

場所：博物館第一分館倉庫(旧知能機械実習工場)

担当：三島 美佐子 開示研究系・准教授

この「夜会」も、「国際博物館の日」2014年テーマにあわせて、コレクションと人々との新たな“つながり”をうみだしてみよう、ということで、前日同様、「身体表現」がテーマのひとつでした。ダンサーの宮原さんにご協力いただいた新たな「人」の繋がり、この会を実現することが出来ました。古賀祐史さん・生島国宜



脈動のような音楽と映像のうねりが広がった第一分館倉庫内

さんのDJに、リベラリズムさんによる映像

が重なり、第一分館倉庫は、これまでにない異空間。そして一段落した後に、バックヤードツアー。普段博物館にほとんど足を踏み入れたことのない皆さんにも、標本をご覧いただくことが出来ました。

## Series : Courses Related to the Museum

### シリーズ・大学博物館の授業紹介

#### その3：学芸員資格取得

## 博物館資料論

中牟田 義博 一次資料研究系・准教授



講義中の筆者

学芸員として博物館で働くためには、文部科学省が行う「学芸員資格認定試験」に合格するか、大学で開講される学芸員のための講義を受講し一定以上の単位を取得することによって、学芸員資格を得ることが文部科学省の規定で定められています。九州大学では学芸員資格取得のための講義が開講されており、九州大学の学生はこれらの講義を受講することによって学芸員としての資格を得ることが出来ます。

九州大学で開講されている学芸員のための講義としては、博物館の経営に関するもの(博物館経営論)や展示に関するもの(博物館展示論)など8つの講義と、

博物館実習として実際の博物館で行われる作業の実習訓練があります。

大学の講義は何かと難しく、「なにに論」のような講義名をつけるのですが、私が受け持っている「博物館資料論」



講義風景

も「～論」となっていますが、講義の実際は、自然史や技術史系博物館において、資料を収集、保存、展示を行う際にどのような点に注意しなければならないかを、一緒に考えながら、学芸員を目指す九大生に学んでもらう場と考えています。

自然史系博物館は、資料の取り扱いにおいて歴史・民族系博物館とは大きく異なっています。歴史・民族系博物館での

資料は、いずれも、これまでの歴史の中で残されてきた貴重な遺産ですが、自然史系博物館では、自然の中から資料を採取し、研究し、保存・展示を通じて、自然の姿の一部を後世に残し伝えていくことになります。自然から何を切り取り(採取)、どのような情報をどのように残すか(保存)、どのように展示すれば何が伝えられるか(展示)。私たちは自然そのものを切り取って、博物館に保存し、展示することは出来ませんので、残る情報と切り捨てられる情報を、採取・保存・展示の各時点で常に意識しておく必要があります。学芸員として資料と接するとき、何が残り・何が失われるか、「常に悩める学芸員を作ること」が私の講義の目的でもあります。



講義が行われている箱崎の理学部校舎

### COLUMN

### これも博物館のお仕事

## タンポポ調査西日本2015始まる!

担当: 三島 美佐子 開示研究系・准教授

タンポポ調査西日本は、1970年代から続く、日本で一番規模が大きく実績もある市民参加型調査です。日本の在来タンポポ、国外から移入された外来タンポポ、そして両種間の雑種の

分布状況を明らかにして、環境変化をモニタリングしていこうというものです。元々大阪府から始まり、今では滋賀・福井・三重から福岡・佐賀までの19県が参加しています。福岡県は、当館

と北九州市立自然史・歴史博物館が事務局となり、2010年から参加しています。作業はかんたん。タンポポの生えている場所を正確に記録して、花サンプルとともに情報を事務局に送ります。来年の本調査では、よりたくさんの皆さんに呼びかけて、前回までの調査で調べきれいな地域を中心にサンプルとデータを集めたいと思っています。みなさんも是非ご参加下さい。

お問い合わせ:

タンポポ調査2015 福岡県事務局  
tanpopo@museum.kyushu-u.ac.jp



大阪での調査説明会の様子



## Series: Museum Jobs from A to Z

シリーズ・大学博物館のお仕事紹介

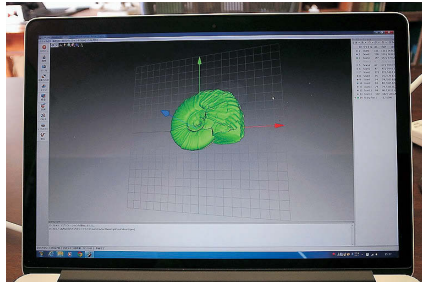
メディア技術の活用

## 博物館収蔵品の3Dデータ化作業

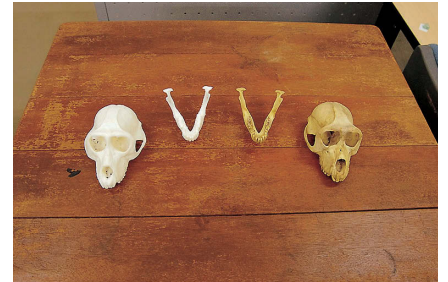
瀬戸 浩貴 テクニカルスタッフ



ハンディタイプの3Dスキャナーで骨格標本のスキャン中



化石の3Dデータ



3Dプリンターで印刷したレプリカ(左)と実物の骨格標本(右)

博物館には、実に多種多様な資料がありますが、損傷の恐れがあったり、移動が困難であったりと、展示や公開などが難しいものも数多くあります。そういった資料を活用するために、スキャンなどをして、得られたデータを利用するということが広く行われています。私は当館で2010年から3Dデータ化作業に携わり、現在は松本隆史助教のもと、様々な資料を3Dスキャンしています。今回その作業内容についてご紹介します。

まず、資料を3Dスキャナーを使ってスキャン撮影します。今は携帯型のスキャナーなので、資料を何度も動かさずに撮影できます。また、資料の多面を連続的に1回で撮影できるので、少ない回数で撮影が

済みます。以前は固定式のスキャナーで、一面ごとの撮影だったために、撮影後も含め、今より長時間の作業が必要でした。

次に、撮影で得られたデータをソフトウェアで処理します。データにノイズが含まれていることがあり、それを削除します。複数の撮影データは、ジグソーパズルのように位置合わせをし、1つの3Dデータとするために結合させます。

資料の立体構造と色は同時撮影されているのですが、実は、この時点では別々のデータとなっています。そこで最後に、結合した立体構造データに色データを貼付けて調整し、これで資料の3Dデータが完成します。

この3Dデータを画像として利用する

こともできますが、3Dプリンターを使い、立体で印刷することができます。元の資料より縮尺を変えた立体印刷も可能です。

今まで様々な資料を3Dスキャンしていますが、残念ながらすべてうまくいくとは限りません。とても小さなもの、薄かったり、立方体のように単純な構造のもの、逆に細かな構造のあるもの、鏡のように光を反射したり、透明であったり、黒くて光を吸収するものなどは難しいです。微細な毛の多い動物の剥製や、光沢のある昆虫標本などは思うようにいきません。対して、動物の骨格、化石、建造物の装飾部分、木製品などは、作業時間の差こそあれ、3Dスキャンが可能です。各々の資料の特徴を捉えて、試行錯誤が続きます。

## COLUMN

## 博物館連携

## ミュージアム巡りスタンプラリー

担当: 松本 隆史 開示研究系・助教

福岡ミュージアムウィーク(p1参照)では、ミュージアム巡りスタンプラリーが行われました。参加している福岡市内のミュージアム11館のうち、2カ所のスタンプを集めて応募をすると、

抽選で豪華賞品があたるものです。当館では、旧工学部本館建物の玄関についている鳥形装飾(通称:コンドル)を図案にした特製スタンプを用意しました。期間中、沢山のご来場

をいただき、いろいろな館のスタンプが押された応募用紙が集まりました。

今年は、当館にご来場くださった方の中から抽選で、3Dプリンターで作った「コンドルマグネット」(写真)をプレゼントしました。これは、玄関コンドルを3Dスキャンしたデータを立体印刷し、マグネットに仕上げたミュージアムグッズです。来年も楽しい企画をご用意いたしますので、ぜひご来場ください。



カラフルなコンドルマグネット

## シリーズ・九大博物館での研究の紹介

科学研究費補助金による研究: その9

## 人骨から通過儀礼と社会変容を復元する

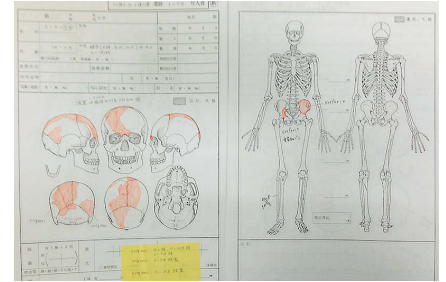
舟橋 京子 開示研究系・助教 専門: 人骨考古学



大田区郷土博物館での作業風景



大田区所在横穴墓出土人骨に見られる抜歯風習



個体ごとに残存部位を塗り年齢・性別などを記入していきます

通過儀礼とは、現代社会でも往々にしてみられる、人間の誕生・成人・婚姻・死に際して行われるお祭りのことです。

これまでの研究において、通過儀礼は社会の複雑性と関連しており、社会の変化とともに変化すること、同時代の日本列島でも中心地域と周辺地域で社会変化の速度が異なるのに応じて儀礼の変化も異なっている可能性が指摘されています。この儀礼変化の遅れを社会変容の起きている地域の周辺部で明らかにするのが現在私の進めている研究です。現在は抜歯を用いた通過儀礼と葬送儀礼を中心に研究を進めています。

実際の調査・分析は、抜歯風習に関しては、報告書の出土人骨に関する記述を調べ実際に人骨の調査が可能な場合

は現地に赴くという形を取っています。葬送儀礼に関しては、古人骨と古人骨の出土図面・写真の突き合わせから、儀礼の痕跡を読み取ります。先史時代には遺体の一部を切り取って持ち去ったり、動かしたりという「断体儀礼」が見られます。本来の人間の骨の位置関係との比較からそのような儀礼行為が見られるかどうかを判断します。加えて、同じお墓に埋葬された人たちの埋葬順序・埋葬間隔を復元し当時の人々の親族関係モデルを作り、歯冠計測値を用いた血縁関係の推定方法によりそのモデルを検証し、当時の社会の複雑性を考える上で根拠の1つとなる親族関係の推定をおこないます。

この作業のうち、実際に古人骨を観察して個体同定・年齢・性別の推定を行い

古人骨と出土図面・写真と照らし合わせる作業はかなりの作業量です。そんな時に頼りになるのが本学で日夜研究に勤しみ古人骨の扱いに習熟した頼もしい基層構造講座(比較社会文化学府)大学院生諸氏です。昨年度行った大田区郷土博物館収蔵古墳時代人骨の調査では、作業台一杯に1つの横穴墓(古墳時代の崖面に掘り込んだお墓で1つの横穴墓に複数体埋葬されている場合が多い)から出土した人骨を広げて議論を重ねました(写真)。

なかなか全ての項目に関して上手く分析作業ができる横穴墓に巡り会うのは難しいですが、今年度も継続して調査を行う予定です。

(若手研究(B): 平成24年度~26年度採択)

## COLUMN

## 館員活躍録

## 日本古生物学会の開催成功!

担当: 前田 晴良 分析技術開発系・教授

古生物学分野の国内最大の学会: 日本古生物学会が九州大学総合研究博物館の重厚な建物を舞台に6月27日-29日に開催されました。日本全国や海外から第一線の古生物学者

280名が集まり、恐竜・アンモナイトなど太古の生物に関する最新の研究成果が披露され、活発に討議されました。また、アマチュア会員・一般市民・高校生を対象としたイベントも用意

され、特に未公開化石を実際に手で触りながら研究者のトークが聞ける「プロフェッサー前田の超マニアック化石講座」は大盛況でした(写真)。参加者から鋭い質問が飛びだし、研究者が慌てるたびに会場は笑い声に包まれました。研究者と一般市民が気さくに交流できる場としての大学博物館の重要性が改めて浮き彫りになりました。



アマチュア向けイベントのポスター



## Series : Research at the Kyusyu University Museum

特別寄稿

## 世界一のカイコの系統保存 — 生きた標本を維持する —

伴野 豊 農学研究院附属遺伝子資源開発研究センター家蚕遺伝子開発分野・准教授 専門: 蚕糸学、家蚕遺伝学、遺伝学、応用昆虫学

現在、農学研究院遺伝子資源開発研究センターでは突然変異体を中心とした約800種類のカイコ系統を保存しています。通常、カイコの幼虫や繭は白ですが、その形質とは異なり、写真にあるように変わった形質を持つものを突然変異体と称します。九州大学では、農学部の創設された1920年代から研究材料として突然変異体を収集してきました。今やその量は世界最大のコレクションとなっています。突然変異体の有用性は通常の形質と何処が異なるかを調べることによって、形質の発現に必要な過程を知ることが出来る点です。例えば、黄色の繭と白の繭の違いは何処にあるのかを比較して解析すれば通常の繭色形成に必要なメカニズムが見えてくる訳です。

さて、その多様な系統を維持することが私たちの最も重要な仕事で、コレクションを高品質な状態で維持する博物館

の使命と似た点があります。異なる点は、カイコの維持は生かしたまま管理することでしょう。カイコは卵、幼虫、蛹、蛾と姿を変えますが卵の時期に休眠するのでその時期に冷蔵庫に保管し、長期保存してい

1度でも失敗したら、その系統はこの世から消失することになります。先輩の先生から聞いた話で印象的なのは、第2次世界大戦中、福岡が空襲を受けた時の話です。博多の町に落ちる焼夷弾が箱崎(農学

部)に落ちたらカイコ系統は全滅すると心配したということでした。九大には世界のカイコが集まっていますが、その多くは現在では現地には保存されず、九大でのみ維持されているものも少なくありません。この貴重な財産(heritage)を安全に後世へ伝えること、オンリーワンの個人的なカイコ系統から新たな研究が始まることを祈って日々“おかいこさま”のお世話を続けています。



ます。しかし、その保存も1年が限度です。そこで、全ての系統(コレクション)を1年に一回桑で飼育する作業が必要となっています。このため、九州大学には3ha近くの桑園があります。生きた標本であるので、

(カイコの系統保存は、文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクトの支援を受けて行われている。)

上段、左: 図1) 幼虫の突然変異  
上段、右: 図2) 繭色の突然変異  
下段、左: 図3) 遺伝子資源開発研究センターと桑園  
下段、右: 図4) 幼虫の飼育シーン

※ 写真は全て農学研究院附属遺伝子資源開発研究センター提供

## COLUMN

## 学内連携

## 図書館での共催展示

担当: 丸山 宗利 開示研究系・助教

箱崎キャンパス中央図書館において、7月より、図書館と総合研究博物館との共催展示が始まりました。同図書館の入り口を入って左手の壁際の展示ケースを用い、これから

1か月程度の間隔で展示を交換して行く予定になっています。

最初の展示(7月末まで)は当館収蔵の世界の昆虫標本でした。美しい蝶や甲虫を中心に21箱を並べて

展示しました。新聞にも紹介され、学外の方々も多く来訪し、たいへん好評だったようです。

8月から始まる第二段では、考古資料の展示を行います。その後も、植物標本・鉱山資料・化石などの特集を予定しています。楽しみに!



## Personnel Changes

### 人事往来

### 兼任教員

医学研究院 保健学部門・助教  
赤坂 勉 平成26年8月1日～

### 専門研究員

三原正三 平成26年4月1日～  
甲木昭雄 平成26年8月1日～

### 特別展示

- 椎木講堂オープニング展示  
「九州大学百年の至宝」第一期  
期間:平成26年3月25日(火)～5月2日(金)  
場所:伊都キャンパス椎木講堂1階  
ギャラリー、展示コーナー
- 福岡ミュージアムウィーク2014参加企画  
「九大特注白磁の謎」  
期間:平成26年5月16日(金)～5月25日(日)  
場所:箱崎キャンパス総合研究博物館常設展示室  
入場数:179人
- 「裏山の昆虫 - 小松 貴 写真展」  
期間:平成26年8月1日(金)～8月29日(金)  
場所:箱崎キャンパス総合研究博物館常設展示室
- 九州大学社会連携事業「すばらしい世界の蝶と蛾」  
期間:平成26年8月2日(土)～8月31日(日)  
場所:志摩歴史資料館(糸島市志摩初)
- 「おしゃれ虫・カタゾウムシ」  
期間:平成26年9月1日(月)～9月26日(金)  
場所:箱崎キャンパス総合研究博物館常設展示室

### 総合研究博物館ウェブコンテンツの紹介

九州大学総合研究博物館では、公式ウェブサイトの他にも、様々なウェブサービスを活用して最新情報やコンテンツを発信しています。ぜひアクセスしてみてください。

- Facebook
  - 日本語 [facebook.com/KyudaiMuseum](https://www.facebook.com/KyudaiMuseum)
  - 英語 [facebook.com/TheKyushuUniversityMuseum](https://www.facebook.com/TheKyushuUniversityMuseum)
- Twitter [twitter.com/Kyudai\\_Museum](https://twitter.com/Kyudai_Museum)
- Vimeo [vimeo.com/KyudaiMuseum](https://vimeo.com/KyudaiMuseum)
- Flickr [flickr.com/KyudaiMuseum](https://www.flickr.com/KyudaiMuseum)

## Activities of Exhibitions & Conference

### 展示・講演会関係の活動状況

### 特別企画

- 「国際博物館の日」記念  
ワークショップ「標本 de 表現」  
期間:平成26年5月17日(土)  
場所:総合研究博物館第一分館倉庫
- 「国際博物館の日」記念  
「旧知能機会実習工場 夜会」  
期間:平成26年5月18日(日)  
場所:総合研究博物館第一分館倉庫
- 大学院生企画ワークショップ  
「みんなでつくろう 標本ものがたり」  
～標本になりきって演じてみよう～  
期間:平成26年7月20日(日)  
場所:総合研究博物館第一分館倉庫
- 夏の昆虫教室  
「カイコの糸取り教室」  
期間:平成26年7月26日(土)  
参加者数:30人  
「セミの標本教室」  
期間:平成26年7月27日(日)  
参加者数:15人  
「セミのぬけがら樹脂封入教室」  
期間:平成26年8月6日(水)  
場所:箱崎キャンパス  
21世紀交流プラザI 1階多目的ホール  
参加者数:30人
- 九州大学社会連携事業  
「昆虫採集と標本づくり教室」  
期間:平成26年8月5日(火)  
場所:志摩歴史資料館(糸島市志摩初)  
参加者数:23人

### 学内連携企画

- 図書館展示  
「標本にみる九州大学の研究」第1弾  
「九州大学の昆虫標本」  
期間:平成26年6月12日(木)～7月31日(木)  
場所:箱崎キャンパス中央図書館2階エントランス  
常設展示コーナー

### 博物館施設一般公開

- 九州大学開学記念学内施設公開  
期間:平成26年5月9日(金)  
場所:箱崎キャンパス
  - ・総合研究博物館常設展示室
  - ・旧工学部本館4階第二会議室  
「青山熊治画伯筆壁画」
  - ・列品室1
  - ・総合研究博物館第一分館
 入場数:60人
- 「地質の日」記念企画展示  
プロフェッサー前田の化石講座  
期間:平成26年5月9日(金)  
場所:箱崎キャンパス総合研究博物館常設展示室  
入場数:30人

### 運営委員会

平成26年 2月28日(書面回議)  
平成26年 3月28日(書面回議)  
平成26年 5月19日(書面回議)  
平成26年 6月18日  
平成26年 7月 8日(書面回議)  
平成26年 9月11日(書面回議)

### 団体見学

平成26年 4月18日 国際医療福祉大学  
平成26年 5月 7日 公開展示ワーキンググループ  
平成26年 6月23日 箱崎小学校  
平成26年 6月28日 日本古生物学会2014年年会  
～ 6月29日  
平成26年 7月 3日 古河機械金属株式会社  
平成26年 7月28日 社会教育主事講習  
平成26年 8月 2日 九州大学オープンキャンパス  
～ 8月 4日